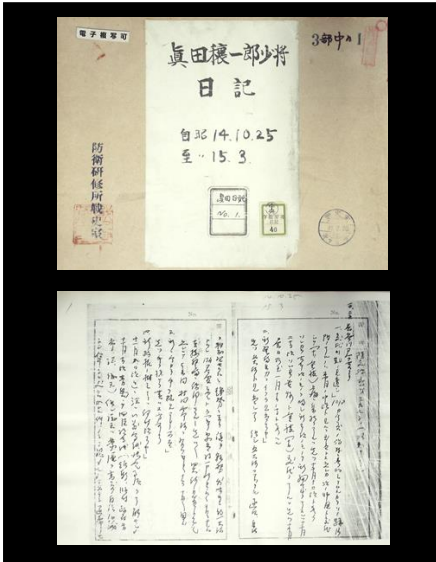


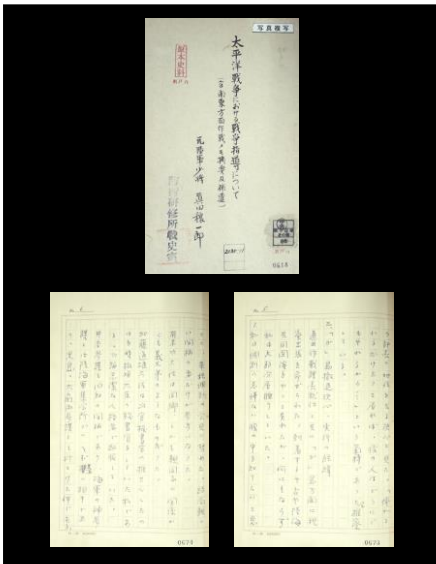
平成29年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 さなだ じょういちろう  
真田 穰一郎 1897～1957年 》  
—北海道出身の陸軍少将—



**真田穰一郎少将日記** (登録番号：中央-作戦指導日記-46～85)

真田穰一郎少将は、大正8年5月陸軍士官学校(31期)を卒業後、昭和14年8月に歩兵第86連隊長に就任、支那派遣軍参謀を経て、昭和16年2月から昭和20年3月までの間、陸軍省軍務局の軍事課長と軍務課長、次いで参謀本部の作戦課長と作戦部長、そして軍務局長を務めるなど、陸軍中央の要職を歴任します。「真田穰一郎少将日記」(全40分冊)は、昭和14年10月から昭和20年12月までの約6年間にわたる日々の業務が克明に記録されており、極めて貴重な史料です。ただし同日記は判読が困難なことから、長年この日記の解読に取り組んできた元戦史編纂官の福重博氏が作成した解読版を併せて所蔵しています(他に「真田少将日記摘録」(全2冊)中央-作戦指導日記-262・263、細野勉編『真田穰一郎將軍を偲ぶ』非売品、1984年)。



**太平洋戦争における戦争指導について** (登録番号：中央-戦争指導その他-86)

この史料には、戦後真田が筆記した「南東方面作戦『メモ』摘要」などのほか、「真田穰一郎少将陳述要旨」が綴られています。同陳述要旨には、ガダルカナル島(ガ島)戦激化に伴う船舶徴用問題やガ島撤退経緯、第二段作戦以降の作戦計画の不備と戦争指導計画の立案、インパール作戦認可問題や東條大臣・総長兼任の経緯などが聴取・筆録されており、上記日記を補完する貴重な史料です。特に、昭和17年12月作戦課長就任直後に「ガ」島方面への出張を命ぜられた真田が、第8方面軍各参謀の意見を聴取後に戦略転換の必要性を報告、数次の会議などを経て大本營のガ島撤退の方針が決まった経緯などが記されています。ガ島からの日本軍の撤退は、昭和18年2月に実行され、奇跡的な成功を収めました。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-6-29171、29175(史料紹介コーナーのみ29651)  
外線：03-3260-3011  
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：www.nids.mod.go.jp